

# 日本科学者会議 京都支部ニュース

5月号 No.387

2016年4月11日発行

〒604-0931 京都市中京区二条通寺町東入榎木町95-3 延寿堂南館3階

Tel/Fax : 075-256-3132

E-mail : jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL : <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/jsa-k/>

ゆうちょ銀行振替口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：01050-6-18166

ゆうちょ銀行総合口座 加入者名：日本科学者会議京都支部 口座番号：14480-2800181

上記総合口座を他金融機関からの会費振り込みの受取口座として利用される場合は以下の内容を指定して下さい。  
店名：四四八(読み ヨンヨンハチ) 店番：448 預金種目：普通預金 口座番号：0280018

..... 目次 .....

- ◆ 第50回京都支部大会(5/22)の御案内 .....2
- 京都支部大学問題シンポ(4/23)「京都の大学は今どうなってるの?」に出席して .....2
- 関西技術者研究者懇談会4月例会(4/10)「憲法に緊急事態条項は必要か」 .....3
- 「日本の科学者」読書会4月例会(4/21)「貧困問題と社会福祉の役割」 .....4
- ◆ JJS「日本の科学者」近畿地区サポーター会議(4/3)の報告 .....5
- 5月・6月の支部関連行事の案内 .....6
  - ・ H.Wallon 研究会(5/11)
  - ・ 第8回レイチェル・カーソン関西セミナー(5/15)
  - ・ 『日本の科学者』読書会5月例会(5/19)
  - ・ 第50回支部大会(5/22)
  - ・ JJS「日本の科学者」近畿地区サポーター会議(6/25)
  - ・ 木村草太さんが語る日本国憲法～安保法制のこと、改憲のこと～(6/5)
- ★ 寄稿：開発という言葉は僕の知覚を逆撫でする(須田 稔) .....8
- ★ 寄稿：731 ツアーに参加して(宗川吉汪) .....9
- ◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより .....11

### 今年度会費の納入をお願いします!

京都支部財政は5月1日より新会計年度に入りました。支部では既納会員の会費で未納会員の全国会費を毎月前納していますので、年度初めに相当の会費納入がないと、以降の支部財政のやり繰りが困難となります。事情をご賢察の上、同封の振込用紙で今年度会費を早急に納入願います。なお、深尾・亀井・築山・辻田・富田・清水・菅原・鈴木・宗川・未満・山口・左近の諸会員は2016年度会費をすでに納入されています。

年間会費は、一般会員：14,400円、家族割り会員：4,200円、若手会員：6,000円、若手特別会員：4,200円です。  
(支部財政担当幹事)

## 第 50 回京都支部大会のご案内(再掲)

京都支部第 50 回定期大会が以下の日程で開催されます。

日時：5 月 22 日（日）13：30～17：00

会場：キャンパスプラザ 6F 龍谷大サテライト

### 支部大会について

- ・支部規約により全会員の出席を求めています。  
大会成立には委任状も含めて過半数の出席が必要です。  
支部ニュース 4 月号同封の出欠ハガキを必ず投函してください。
- ・支部幹事の選出は立候補制です。  
幹事の員数は会員数の 1/20（14 人）以上です。ふるって立候補ください。
- ・立候補される方は、支部幹事会宛に、文書、FAX、メールのいずれかにて  
5 月 19 日（木）18 時までにご連絡ください。

文書の場合：〒604-0931 中京区二条通寺町東入榎木町 95-3 南館 3 階  
日本科学者会議京都支部

FAX の場合：075-256-3132

メールの場合：jsa-kbranch3132@mbox.kyoto-inet.or.jp

幹事立候補は大会当日に会場でも受け付けます。

### 京都支部大学問題シンポジウム（4/23）の報告

#### 「京都の大学は今どうなってるの？」に出席して

富田道男

さる 4 月 23 日（土）午後、龍谷大学深草キャンパスで標記のシンポジウムが行われ、京大、工繊大、立命大および竜谷大の 4 大学からそれぞれの大学の主要な問題の報告がおこなわれた。大学を定年退職後 15 年以上経った昨今、あまり関心のなかった大学の今どきの様子を垣間見ることができた。

法人として国直轄から離れた国立大学では、教授会を中心とする大学の自治的運営が、学校教育法の改悪により、会社並みの上意下達式運営形態が導入され、飛躍的に権限の強化された学長とそれを取り巻く民間人の加わった理事会とが、文部科学省（文科省）の強

力な財政的縛りの中で、大学を文科省の意のままに運営できるようになり、学問の自由が脅かされているとのことであった。従って、学長がどのような人物であるかによって、大学の在りようがまるで変わるということで、学長選のことが話題の一つであった。中でも印象深かったのは、「大学・平和・連帯」のテーマで行われた立命大からの総括的報告であった。報告では、第一に「大学の提起した市民革命」として安保法制廃案と立憲主義回復を掲げて全国的に広がった「大学人有志の会」や SEALDs KANSAI など学生の主体的運動を挙げ、第二に「京都の大学と立命大の民主

的な変化」として、京大、同志社大及び立命大の学長選における学内諸階層による下からの候補押し上げによる民主的学長選の成功を挙げた。その後のこれら三大学のトップのメッセージの質が全く変わりつつあることを指摘した。とりわけ立命大においては、大学の公式行事において、「自由と清新」、「平和と民主主義」、「立命館憲章」を強調する式辞が前面に出されるようになったとの指摘は感動的であった。第三に国政選挙に向けての「野党共闘」と勝利を目指した市民との協同・連帯として、「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」、関西の「大学有志の会」連合などの結成とこれらの活発な活動を挙げた。また、滋賀、奈良、和歌山、福井各県における「野党共闘」実現を目指した市民運動では、大学教職員が大きな役割を果たしており、その存在感が際立っているとの指摘もあった。

報告の最後に、新しい総長を実現した立命大教職員・学生のエネルギーが、市民との連帯や平和のたたかい、市民的権利擁護の運動に向かっているとの指摘があり、科学者運動にとっても明るい話題であった。

他方、宗教団体により設立され、建学精神の一つに「平和の心」を掲げる竜谷大からは、学内「9条の会」発起人に学長が名を連ねていることが紹介され、大学の主要な問題として取り上げたいこととして、学費無償化についての報告が行われ、建学の精神に何とか立ち戻った感のある立命大とは、また一味違った印象を受けた。

いずれにしても科学者会議の大学問題シンポジウムとしては、参加者が20名足らずという点を除けば、内容のある成果を得たとの印象であった。

## 関西技術者研究者懇談会 4月例会 (4/10) 報告

### 「憲法に緊急事態条項は必要か」その危険性・問題点

山本謙治氏

日時：2016年4月10日(日) 14時～17時  
場所：JSA 大阪事務所 参加者：11名

#### 「憲法に緊急事態条項は必要か」その危険性・問題点

山本謙治氏

岩波ブックレット No.945「憲法に緊急事態条項は必要か(永井幸寿弁護士著)」を主教材にし、永井弁護士とともに災害対策に奔走されている小口弁護士のYOKOHAMA デモクラシー道場での講演、雑誌「日本の科学者」4月号の植野論文「立憲主義と国家緊急権」、升永弁護士の意見広告、IWJによる水島早大教授緊急インタビュー、しんぶん赤旗による同教授へのインタビュー記事「緊急事態条項

は劇薬」、報道ステーション「ワイマール憲法から学ぶ自民党憲法草案緊急事態条項の危うさ」動画をサブ教材に、11名の参加者が意見や関連情報を途中でもドンドン差し込み、活発な質疑や意見交換を行った。

アベ政権がお試し改憲として持ち出してきた緊急事態条項は、自民党改憲草案に示す通り、①内閣(総理大臣)が緊急事態を宣言し、②法律と同等の効力を持つ政令を制定し、③緊急の財政支出と処分を行い、④国会が事後承認をするというものであり、それを通すことで憲法を根こそぎ変えてしまう独裁政治への道をひらくことになる危険なものである。

立憲主義は一人ひとりが人として誇りを持って自由に生きる個人の尊厳を守るために、基本的人権の尊重と権力分立を大前提としており、憲法は国家権力を縛るものである。災害対策は何よりも事前の準備が大切であり、すでに法体系は整備されている。泥縄の緊急事態条項では役に立たないだけでなく、事前の準備を疎かにする弊害にしかならない。災害をだしに使うことは許されない。他国からのミサイル攻撃などの危機意識をあおり、緊急事態条項で全権委任を手に入れ、憲法を変えずに踏みにじり、憲法違反の戦争する国への体制作りをするのはナチの手口と同じである。緊急事態条項は、安保法制強行でいつでもどこでも戦争できる国への転換を可能にしたのに続き、安保法制の第2波として、戒厳令や国民総動員・治安維持法など、市民に対する権利制限や自治体統制を可能にする、戦争のための国内体制づくりを狙うものであり、絶対通してはならない。

## 討 論

★報道ステーションやニュース23などでアウンサーやコメンテーターの降板が相次ぎ、日本会議系の団体からの「偏向放送」

攻撃や電波停止発言など、表現の自由への攻撃が強まっている。

★「北朝鮮が日本に攻めてきたらどうするか、軍備や緊急事態への対応が必要ではないか」という声に対し、①危機感をあおるナチの手口と同じで、②経済的にも政治的にも非現実的なことで、③仮に発生したとしても現在の法体系で対応可能であり緊急事態条項はいらない（不十分なら法体系を整備すればよい）、④大切なのは、平和憲法を活かし、そのような事態を起こさない平和外交や話し合いを行うこと、などを、きちんと説明できるようにすることが大切。

★選挙では、格差や貧困、子育てと労働の劣悪な環境への具体的な解決策を示し、若者やサラリーマンなど無党派層の心をつかむことが必要になる。

## 次回例会予定

5月8日(日) このままでは福島の人々は切り捨てられますー5回目の福島訪問ー

出口幹郎氏

(文責：山本謙治)

## 『日本の科学者』読書会4月例会(4/21)

### 2月号特集「貧困問題と社会福祉の役割」

標記例会が午後3時より支部事務所で開かれた。参加者8名。2月号特集「貧困問題と社会福祉の役割」から2論文を取り上げ、著者でもある佛教大学・田中智子さんと清水民子さんに報告をお願いした。田中さんはこれを機にJSAに入会していただいた。

#### 田中智子：障害者家族におけるケアの長期化と家族内部の不平等（報告・著者本人）

今回は、2016年2月号に掲載された「障害者家族におけるケアの長期化と家族内部の不平等」の論文を報告させていただきました。

本論文は、世帯という単位だけではとらえられない家族内部に生じる不平等について知的障害者のケアを通じて検討したものです。

家計構造が幼少期から知的障害者に優先的に配分されていること、世帯所得が低位であっ

でも家族の高齢化が進行しても知的障害者への支出配分を下げられない現状について確認しました。その結果、家族には「二次的依存」が生じ、それが「親なき後」問題へと続いていることを考察しました。

読書会では、他分野をご専門とされている方からも鋭い質問をいただき、言葉の定義や調査手法について、他者にわかるように伝えることの大切さとむずかしさを改めて実感しました。本雑誌に掲載していた後、編集委員会の方からも温かいコメントをいただいたのですが、今回の読書会でも皆様のコメントから自分の研究の意義や位置づけを再確認できるようなコメントをいただき、本当にうれしく思いました。今回のことをきっかけに、本問題をきちんと社会に問うことができるような研究をしていきたいと、改めて気持ちが引き締まりました。

#### 堀場純矢：児童養護施設からみた貧困と職員の労働環境（報告：清水民子）

児童養護施設入所理由の上位に親による「虐待・酷使」「放任・怠惰」がある。その背景には、親たちの「低学歴」「不安定就労・無職」「生活保護受給」「無保険」「居住環境・近

所づきあいの貧しさ」「健康問題：精神疾患・慢性疾患」「生活文化の貧困」という「貧困の再生産」があることを、施設を利用する親子の調査および事例により示している。

一方、施設職員の労働条件調査から、介護・看護・保育職などとの比較では収入面では低いとはいえ、相対的に安定しているが、施設養護の「小規模化」にともない、「長時間勤務」「宿直増」「孤立」による労働条件の悪化が進み、「精神的ストレス」の訴えが多く、「早期離職」も増えていることを示す。

これらの実態から、ケアの受け手と担い手には「階層性と労働・生活問題の共通性・連続性」があることを捉え、施設職員が「自己責任論」で受け手（親）を見ることなく、共同関係を築く根拠になりうることを期待される。そのためには労働組合の重要性を喚起したいとしている。

（討論）児童福祉とくに養護の分野は、基礎的事項でさえ、一般には十分知られていないので、実態・現状理解をめぐる質疑があいついだ。専門に近い会員の参加によって、理解を深めることができたと思う。

## JJS「日本の科学者」近畿地区サポーター会議(4/3)の報告

日時：4月3日（日）13：30～16：30

場所：大阪支部会議室

出席：小野（京都）、宗川（京都）、島影（大阪）、長野（大阪）、浦野（兵庫）

### 1) 近況報告

浦野：5月7日に兵庫支部総会開催予定。

島影：JJS 5月号に甲状腺がんに関するオピニオン記事を書いた。

小野：編集委員会の報告。遺伝子組み換え、報道の自由、こどもなどで特集を予定。

宗川：小児甲状腺がんのブックレットの広告を福島民報と福島民報が掲載を拒否した。京都支部は21総学の準備を進めている。編集委員会が投稿論文を公正に審査しているか疑問。  
長野：インドネシア森林火災で、坂井美穂さんが論文執筆中。医薬品高騰問題で、山口祐司さんに執筆依頼中。

## 2) 講評

3月号：ガラスの天井、「成功談」ばかりを持ち上げることに疑問。柴崎論文、汚染水問題の深刻さがよく分かった。談話室、「平和大学」に共感。多忙すぎる大学で、教職員が疲弊。

4月号：大日方論文、育鵬社教科書の影響深刻。理科教科書でも検定による文科省が介入し、PPMの記述を認めない。大学への君が代・日の丸の強要。大野論文、大阪大学での平和講義による。

## 3) 次回サポーター会議

6月から京都支部事務所で開催することにした。

(文責：宗川吉汪)

# 5月・6月の支部関連行事の案内

## 1. H.Wallon 研究会

日時：5月11日（水）15：00～

場所：人間発達研究所（滋賀県大津市、JR大津駅から徒歩5分） Tel：077-524-9387

内容：ワロン文献を探る

問い合わせ：藤本文朗 <070-5675-3408>

## 2. 第8回レイチェル・カーソン関西セミナー

日時：5月15日（日）14：00～16：00

場所：ヒロセビル会議室（京都市中京区烏丸通二条下る西側）

原発事故と人間の健康への影響ー小児甲状腺がんに焦点をあててー

講師：宗川吉汪

主催：レイチェル・カーソン日本協会関西フォーラム

共催：京都支部脱原発研究会

参加費：500円

## 3. 『日本の科学者』読書会5月例会

日時：5月19日（木）15：00～17：30

場所：京都支部事務所

テーマ：4月号「立憲主義・民主主義・平和主義を取り戻す」

担当：清水民子：大日方論文「『戦後70年』における戦争認識・平和認識の課題」

山口進次：植野論文「立憲主義と国家緊急権」

菅原健二：金子論文「『第九条』の永久存続のために」

#### 4. 第12回京都支部幹事会

日時：5月19日（木）18:00～20:00

場所：京都支部事務所

#### 5. 第50回支部大会

日時：5月22日（日）13:30～17:00

場所：キャンパスプラザ京都

#### 6. 2016年度第1回京都支部幹事会

支部大会開会中

#### 7. 第47回全国定期大会

日時：5月28日（土）～29日（日）

場所：東京

#### 8. 2016年度第1回JJS近畿地区サポーター会議

日時：2016年6月25日（土）13:30～

場所：京都支部事務所

議題：近況報告／『日本の科学者』講評 2016年5月号・6月号／その他  
2016年度の世話人は前田さん

\*\*\*\*\*

### ☆ 催しのご案内 ☆

「安全保障関連法廃止！ 市民・学者・学生・弁護士の共同行動@Fushimi」が主催して、以下のような催しが開催されます。多くの方のご参加をお持ちしています。

## 木村草太さんが語る日本国憲法

### ～安保法制のこと、改憲のこと～

- ・日時：2016年6月5日（日）13時30分～（開場、13時）
  - \* 入場無料・申込不要・保育室あり（保育室の希望は、可能であれば事前連絡を）。
- ・場所：龍谷大学（深草キャンパス）和顔館B201教室
  - \* 東門（京阪深草駅から数分）入ってすぐの建物です。
- ・講演：木村草太 首都大学東京教授
  - 「立憲主義と日本国憲法の課題」
    - \* 講演の後、質疑応答、リレートーク（16時30分終了予定）。
    - 講演会の終了後、パレード（龍谷大学→西浦南公園）。

・午前中（10 時～）、『わたしの自由について～SEALDs2015～』を自主上映します（上映時間 165 分，入場無料・申込不要）。会場は，和顔館B101教室。関心をお持ちの方は，こちらにもご参加ください。

「安全保障関連法廃止！ 市民・学者・学生・弁護士の共同行動@Fushimi」には，以下の4団体が呼びかけ団体として参加しています。  
安全保障関連法に反対する京都教育大学教職員有志の会 / 安保法制の廃止を求める龍谷大学人の会 / 龍大9条の会 / 京都南法律事務所

（文責：細川 孝）

\*\*\*\*\*

寄稿：  
**開発という言葉は僕の知覚を逆撫でする**  
2016/3 須田 稔

国連開発計画 UNDP (United Nations Development Programme), ミレニアム開発目標 MDGs (Millennium Development Goals), 開発独裁, 開発と女性/ジェンダーと開発, 開発研究などの項目が情報・知識辞典「imidas」にある。

「開発」は英語で development とされる。が，同義語に exploitation があり，これには「開発」の他に「搾取」の意味もある。

「経済成長」, 「経済発展」が貧富の格差を増大させることと同義であるような現状をみると，ブータン国が GNP＝国民総生産でなく GNH＝国民幸福度を高める事を目標にしていることが僕を欣喜雀躍させるのだ。宮澤賢治が『農民芸術概論綱要』で「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と断言したことの実践のよう希望の燭光を見るのだ。

アベ政治は，「世の中を治め，人民の苦しみを救うこと」と『広辞苑』が解説する「経世済民」とはまるきり逆で「亡国棄民」だ。因みに「済民」は見出し語にない。「棄民」は「見

すてられて国家などの保護下にはない人たち」と解説されていて，国家が人民を見放して保護しないこと，という意味ではないようだ。が，60年以上にわたって自民党政治は棄民政

治なのだ。  
1945 年 8 月に米軍が投下した原爆の生存者ヒバクシャと二世・三世。米国のマーシャル諸島での 100 回を超える核実験，特に 1954 年 3 月 1 日のビキニでの水爆実験で死の灰を浴びた第五福龍丸はじめ約 1000 隻のマグロ漁船の船員たち。1907 年以来の隔離政策で迫害・差別を 90 余年ものあいだ被ってきたハンセン病患者たち（因みに、『広辞苑』はこの疾病を説明するだけだ）。1956 年 5 月 1 日に「水俣病 {発生} の公式確認」されて 60 年になる水俣病患者 {『広辞苑』は「工場廃液による有機水銀に汚染された魚介類を食したことにより集団的に発生」と書く}。

そして，フクシマだ。放射性物質による汚染が年間 1 ミリシーベルト以下を安全としていた事故直後から大きく変化して，2015 年 6 月には「福島復興指針の改訂」を閣議決定，

20 ミリシーベルトに引き上げ、これ以下の地域は避難指示を解除，慰謝料や生業に対する損害賠償打ち切り．県外避難者にたいする住宅補助打ち切りなど，あらゆる分野から原発被害の痕跡を 2017 年 3 月末で完全に消し去ろうとしている．オリンピック誘致のために「フクシマはアンダー・コントロール」だと大ウソをついたからは，辻褄を合わせなければというわけだ．日本と世界の人民を欺き，原発被災者を見棄てるアベ政治なのだ．

『ニューヨーク・タイムズ』前東京支局長のマーティン・ファクラー氏の著作『アベ政権にひれ伏す日本のメディア』は有益だ．国際的 NGO[国境なき記者団]の 2015 年 2 月発表の「報道の自由度ランキング」で日本は過去最低の 61 位だし，国連の表現の自由担当

の特別報告者デイヴィッド・ケイ氏が 2015 年 12 月上旬に調査する意向が日本政府の要請で延期された事態もあった．

僕は、『毎日』を良識派と評価している．広岩近広氏が書く「平和をたずねて」は何回になるのだろう．「核の傷痕 続・医師の診た記録」だけでも 3 月 29 日に 12 回目を数える．

2 月 16 日に「甲状腺がん<数 10 倍多い> 福島県調査 18 歳以下 100 人超」．同 21 日「原発事故 国民にツケ」．3 月 26 日夕刊「元ハンセン病詩人の弟 国賠訴訟に参加」．翌 27 日「ハンセン病<今も差別>77%」．30 日「ハンセン病家族 国提訴」．2 月 21 日「動き出す安保法制 自衛隊一発撃つ日 『平和国家』信頼壊す懸念」．

寄稿：

## 731 ツアーに参加して

宗川吉汪

5 月の連休中，731 ツアーに参加してハルビンと瀋陽を訪問した．ツアーの協催団体は，15 年戦争と日本の医学医療研究会（戦医研），「戦争と医の倫理」の検証を進める会，新医協（新日本医師協会）．賛同団体は，大阪府保険医協会，731 部隊展実行委員会，731 部隊被害者遺族を支える会，731 細菌戦資料センター，ABC 企画委員会，JSA 生命と医の倫理研究委員会，京都府保険医協会．参加者は 38 人（11 人は 2 泊 3 日でハルビンのみ，27 人が 4 泊 5 日でハルビンから瀋陽まで）うち，JSA 会員は，京都支部 4 人，滋賀支部 2 人，東京支部 2 人．

### 1) 731 とは

旧日本陸軍の細菌戦部隊のコード名．1936 年設立．初代の部隊長は，京大医学部出身の

石井四郎．ちなみに，石井の妻は京大総長の荒木寅三郎（医学部医化学教授）の娘で，荒木の胸像が京大時計台前にある．

731 部隊は，ハルビン郊外に広大な研究施設をつくり，京大や東大の医学部出身の優秀な研究者を集めて，細菌兵器の研究・開発を行った．構成員は 3000 人．中国人などの政治犯・捕虜をマルタと称して人体実験を行ない，3000 人も多数を殺害した．

731 には，戦後，医学関係で重要なポストについて人たちが数多くいる．たとえば，吉村壽人（京都府立医大長），岡本耕造（京大医学部長），北野政次（ミドリ十字取締役，東大医学部出身で一時期 731 の部隊長を務めた），石川太刀雄丸（金沢大学がん研所長），児玉鴻（予防衛生研究所初代所長，慶応大教

授) などなど錚々たる顔ぶれである。日本の医学界は731部隊における非人道的行為を未だ反省していない。

## 2) 参加者の自己紹介パンフに記載した私のプロフィール

1939年生まれ。日本科学者会議会員、同会議「生命と医の倫理研究委員会」委員長。2011年、人間の死体(プラスチック標本)を展示する「人体の不思議展」を差止める訴訟の原告になる。最近、『福島原発事故と小児甲状腺がん—福島の小児甲状腺がんの原因は原発事故だ!』(大倉弘之、尾崎望と共著、本の泉社)を出版。人間の尊厳を根底から否定し破壊した731部隊と同じ精神構造が、実は、現代の医者の世界に普遍的に存在するのではないかと疑っている。今回の訪問でその源流をさぐりたい。

## 3) ツアーの日程

★5月3日(火) 関空からハルビンへ(雨風強し、市内はライラックの真っ盛り)

・陽彦君氏(ハルビン市社会科学院731問題国際研究センター長)の講演「731部隊遺跡の現状とこれから」(731遺跡は中国の「ユネスコ世界文化遺産登録の推薦候補リスト」に入った)

・レセプションパーティー

★5月4日(水) 雨

・731部隊罪証陳列館新館と731部隊遺跡の見学

・ハルビン駅の安重根記念館の見学(安重根は1909年10月26日、ハルビン駅構内で伊藤博文をピストルで襲撃し殺害)

・黒竜江省社会科学院との交流会

★5月5日(木) 高速鉄道でハルビンから瀋陽へ、晴れ、時々小雨

・旧満州医科大学(中国医科大学)の見学(北

野政次は満州医大の教授であった)

・9・18祈念館の見学(1931年9月18日夜、関東軍は柳条湖で満鉄線路を爆破し、中国軍の仕業と偽り、攻撃を開始した。満州事変の発端となった事件)

★5月6日(金) 晴れ、瀋陽市内はPM2.5で息苦しい。それでも柳絮が舞っていた。

・第二次世界大戦連合軍捕虜収容所跡陳列館(南方戦線で捕虜にした米英仏豪加蘭の兵士を収容する施設が瀋陽にあった)ならびに日本戦犯審判特別軍事法廷旧跡陳列館(1956年、中国政府は瀋陽に特別軍事法廷を設立し、日本陸軍師団長や旧満州国国務院総務長官を含む戦犯36人の審理を行った)の見学

・瀋陽故宮(清朝の初代皇帝・太祖ヌルハチと2代皇帝・太宗ホンタイジにより建立された皇城)とホンタイジの陵墓がある北陵公園を観光

・お別れ会

★5月7日(土) 快晴、瀋陽から関空へ

## 4) 5月3日のレセプションパーティーにおける1分間あいさつ

731における医学研究に名を借りた非人道的人体実験は、戦時中の軍事研究ということだけでは説明がつかないのではないかと、医学教育の中に根本的欠陥があると思っている。

(私は、かねがね、医学部における「選民」教育を改めるべきであると主張している。とりわけ、遺体解剖実習は廃止されるべきである。)

## 5) 5月6日のお別れ会での2分間あいさつ

731の医学者が戦後の日本の医学界を主導した。医学界には731の検証と反省を求めていきたい。9・18祈念館に、日本軍に惨殺された親子の本物の骨格標本が展示されている

た。「人体の不思議展」に反対した私にとって到底受け入れがたい。戦争犯罪の告発のために人間の尊厳を冒瀆してはならない。(日本軍は惨殺によって人間の尊厳を根底から否定した。9・18祈念館は遺体を公衆の面前に晒すことで死者の尊厳を否定した。)戦後の科学者運動の原点は、科学者が戦争に加担したことへの反省である。しかし反省の主な理由が戦争に負けたことにある、と私は見ている。

その克服が今後の課題。

(日本で再び公然と軍事研究が開始された。憲法九条を擁護し、反原発・核兵器廃絶・戦争反対を融合させる。小児甲状腺がん多発の原因は原発事故だ！ No more hibakusya！ No more war！ 科学の価値中立説やデュアルユース論では軍事研究に反対できない。)

## ◆◆◆◆ 支部幹事会・ワーキング会議だより ◆◆◆◆

2015年第12回幹事会(4/21)および第12回ワーキング会議(5/2)の報告

### 1. 会員の現況(2016年5月2日)

会員合計：266，一般会員：237，家族割り特別会費会員：4，若手会員：6，  
若手特別会費会員：19，読者：3，休会会員：3

### 2. 会員の移動

上野勝代さんが兵庫支部より転入(5月1日づけ)

以下の会員が退会した

入倉孝次郎，筧文生，國廣悌二，春山洋一，和田喜彦，白岩立彦，松下道紀，窪田通雄，  
野田章，加藤菌子，李艶

### 3. 会費納入状況(4月21日現在)

15年度会費納入者：一般 231/247，家族割 3/3，若手 5/6，若手特別 12/19

14年度会費未納者：一般 3，若手特別 3

13年度会費未納者：一般 1，若手特別 2

### 4. 第50回支部大会の準備と確認

事務局長特別報告／討論

2015年度活動報告／財政報告／会計監査報告／質疑・討論／採決

2016年度活動方針／財政方針／質疑・討論／採決

016年度役員選出／全国大会代議員の選出及び全国幹事・参与の推薦

第1回幹事会(代表幹事，事務局長の選出)

大会決議

### 5. 支部関連行事：支部ニュース4月号発行(4/12)以降

4月13日(水) H.Wallon 研究会

4月15日（金） 9.21総学2ndサーキュラー訂正版の印刷・発送  
4月21日（木） 『日本の科学者』読書会4月例会  
4月21日（木） 第12回幹事会  
4月23日（土） 京都支部大学問題シンポジウム  
5月2日（月） 第12回ワーキング会議  
5月8日（日） 関西懇5月例会

（文責：宗川，左近）